

は降水率が低いために、第4図の回帰直線から見れば、一般的に的中率が高いはずだが、上述の統計では北西部の的中率が低く、大陸内部の予想結果が望ましくないのが残念である。

⑦ 東京のデータを使用して同様な計算をした。降水率は2年とも中国の中南部と同じだが、第3図と第4図で示す通り、降水予想は中南部より優れている。第3表と第4表から見ると、スレットスコアの絶対値は東部よりやや高いが、第3図と第4図の回帰直線に近く東部に劣る。本来、日本本土の予想精度は中国東部以上のレベルであると考えていたが、緯度が低いため、降水の予想回数が多すぎる傾向にある。

5. さいごに

今回は日本の全球モデルによる中国での降水予想について検証した。その結果、降水予想の回数が多すぎて、空振りが多い。しかし予想の5mmと実況値の1mmを敷居値とすれば40%前後のスレットスコアが認められ、空振り率と見逃し率のバランスも取れる。また降水予想値が大きくなるにつれ、10mm以上の降水可能性が強くなる。全国平均としてこのような結果が出たが、地区別に分けると、東部が良く、南部や中南部は予想回数が特に多い。なお北西部が余り良くない。これらはGSMの「癖」であろう。以上のことは2年間の暖候期を調べた

結果であり、ある程度の有意性を示していると考えている。

今後中国でGSMの降水予想を使用する場合、このような検証結果が参考になると思う。またGSMのモデル改善の際、降水予想の回数の多すぎる傾向の改善や、大陸内部の予想精度の向上などへこの結果が活用されるよう期待している。

謝 辞

このレポートの作成の際、検証の内容および方法等に詳しく指導して下さった気象庁前予報部立平良三・山岸米二郎と饒村曜の各氏、データの収集に協力して下さった観測部統計室と予報課天気相談所の関係者に厚く感謝致します。

参考文献

- 孫沈清・板井秀泰, 1989: ECMWF と JMA の全球モデル・500 mb の予報精度, 研究時報, 41, 4, 121-128.
- Sugi, M. K. Kuma, K. Tada, K. Tamiya, H. Hasegawa, T. Iwasaki, S. Yamada and T. Kitade, 1989: Description and performance of the new JMA operational global spectral model (JMA-GSM 88), JMA/NPD Tech. Rep., 48pp.

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
降水洗浄と大気-地表間交換過程に関する国際会議	1991年7月15日 ～19日	カナダ気象海洋学会・アメリカ気象学会	リッチランド	Vol. 37, No. 8
第23回乱流シンポジウム	1991年7月23日 ～25日	日本流体力学会	名城大学理工学部	Vol. 38, No. 3
第2回計算流体力学シンポジウム	1991年7月26日 ～27日	日本流体力学会	名古屋大学工学部	Vol. 38, No. 3
第20回測地学・地球物理学連合総会	1991年8月11日 ～24日	IUGG	ウィーン	Vol. 36, No. 12
第8回エアロゾル科学技術研究討論会	1991年8月21日 ～23日	エアロゾル研究協議会	総評会館(東京)	Vol. 38, No. 3
HEIFE(地空相互作用に関する日中共同研究)ワークショップ	1991年9月22日 ～28日		中国(蘭州)	Vol. 38 No. 1
『小氷期の気候』国際シンポジウム	1991年9月25日 ～28日	日本地理学会古気候復元研究グループ	八王子(東京都立大学)	Vol. 37, No. 8
日本気象学会平成3年度秋季大会	1991年10月23日 ～25日	日本気象学会	名古屋国際会議場	Vol. 38, No. 5